

2010-3

工業経営研究学会

学会通信

NO.68

Association for the Study of  
Industrial Management (Japan)

平成 22 年 3 月 20 日

## 第 25 回全国大会のお知らせ

### 1. 主催校挨拶

今年の全国大会は創設 25 年目にして初めて海外で開催するものであり、「工業経営研究学会国際大会」という国外での開催に相応しいもう一つのかんばんを持ち、台湾の台中市にある東海大学において開催致します。

統一論題は「アジアのものづくり経営と日台協働」となりました。みずほ総合研究所の伊藤信悟主任研究員の最新研究によれば、中国において 1990~2005 年の間に設立された日台合弁と日本独自の現地法人の生存率はそれぞれ 88.2%と 79.8% (+8.4%) であり、この内、より長い年月を経過している 1990~1999 年の間に設立された場合はそれぞれ 78.0%と 68.4% (+9.6%) となっています。要するに、日台協働を第三国で行うということは仕組みがユニークであるのみならず、生存率も日本単独より遥かに長いわけです。したがって、日本から少し離れた台湾において、工業経営の視点からアジアのものづくり経営における日台協働の意味をより深く議論いただくことの意義はきわめて大きいものと考えます。

リーマンショックをきっかけに広がった今回の経済不況は、収束の方向に向っているようです。そして、台中地域の製造企業の多くは、既にピークに近い水準にまで回復しているように見られます。今回の国際大会では、初日の企画で台湾中部地域の 2 社の工場見学コースを設定し、台湾企業の現場を十分に味わっていただきますので、皆様方の活発なご参加を期待いたしております。

振り返ってみますと、台湾で開催することは貫隆夫会長と野村重信前会長の以前からの熱心なご希望に応ずるものであり、当学会の最初の国際大会として最適な場所と最適なテーマを探った結果でもあります。理事会やグローバリゼーション研究分科会の有識者からの推薦に基づき、準備委員会と統一論題報告者との間での擦り合わせを早い時期から進めております。また、自由論題報告者の募集も国際会議のルールに沿って行いますので、ご支援の程、よろしく願い申し上げます。

これまではグローバリゼーション研究分科会 2 回、環境研究分科会 1 回の合計 3 回の研究視察を台湾で行ってきたこともあり、会員の皆様にとって台湾は親しみのある国だと思います。大会準備委員会一同、有意義な時間を過ごしていただけますよう、鋭意準備を進めておりますので、多数の会員の皆様に本大会にご参加賜りますよう、お願い申し上げます。

第 25 回全国大会準備委員会委員長 劉仁傑(台湾・東海大学)

### 2. 日程

大会日程	2010 年 8 月 27 日 (金) ~28 日 (土)
	8 月 27 日 (金) : 工場見学、理事会
	8 月 28 日 (土) : 特別講演、統一論題、自由論題、会員総会、懇親会
大会会場	台湾・東海大学キャンパス (407 台湾・台中市台中港路 3 段 181 号)
統一論題	「アジアのものづくり経営と日台協働」

### 3. 報告者募集と締め切り

- 自由論題の報告者を募集します。「技術経営」「生産システム」「国際経営」「サプライチェーン

マネジメント」「医療と福祉管理（英語）」「その他」のセクションを設置します。

- ・ 非会員の報告も歓迎します。
- ・ 研究発表タイトル・要旨受付の締め切りは4月30日（金）です。応募者多数の場合には大会準備委員会で選考させていただきます。ご了承下さい。
- ・ 大会予稿集原稿の締め切り 7月31日（土） 必着
- ・ 応募先

日本側	台湾側
〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1 札幌大学経営学部 中山健一郎先生 naka-ken@sapporo-u.ac.jp	407 台湾・東海大学台中市台中港路3段181号 東海大学985信箱 張書文先生 shuwenc@ie.thu.edu.tw

- ・ 応募要領
  - ① 報告者タイトル
  - ② 報告者氏名・所属（共同報告の場合、報告者すべての氏名・所属）
  - ③ 報告要旨（400字程度、キーワード5つ、書式自由）
  - ④ できれば、電子ファイルで提出して下さい。
  - ⑤ 送付先：上記の報告応募先の e-mail アドレス。ただし、日本の報告者は中山先生に提出して下さい。
  - ⑥ 原稿の書式などは、報告依頼書類とともに5月15日にお知らせいたします。
- ・ 問い合わせ先：
  - ① 大会関連—愛知工業大学 野村重信先生 ([nomurashigenobu@aitech.ac.jp](mailto:nomurashigenobu@aitech.ac.jp)) ;
  - ② 論文関連—札幌大学 中山健一郎先生（日本側）、東海大学張書文（台湾側）

#### 4. 大会参加費

会員の仲間やゼミ生などの非会員の参加も歓迎します。参加費は2社の工場見学のバス代、2日間の昼食代と懇親会の会費を含みます。8月10日までに、一括でお振込みいただきます。振込み先などに関しては5月中に予め案内書をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

- ① 会 員は12,000円（6月10日までに振り込む場合、10,000円）
- ② 非会員は15,000円（6月10日までに振り込む場合、12,000円）

### 「学会賞・研究奨励賞」候補推薦について（お願い）

学会賞・研究奨励賞選考委員会  
委員長 表 秀 孝

2010年度の学会賞・研究奨励賞について、2010年6月18日（金）までに学会賞・研究奨励賞候補作品の募集を行い、その後対象作品について選考委員会で選考を行いたいと考えております。つきましては、学会賞・研究奨励賞候補作品を会員の皆様にご推薦（自薦を含む）頂きますようお願い申し上げます。

なお、学会賞及び研究奨励賞について、工業経営研究学会内規は以下のように定めています。

#### 1) 学会賞

対象者： 全会員

候補作品：

- ① 本会学会誌及び他誌掲載の会員単独又は会員共同論文、会員単著、及び会員編著（但し、執筆者の過半数が会員であること）
- ② 候補作品の発表時期の期限は受賞年から数えて過去4年以内とする。

受賞者数： 2名以内

受賞制限： 受賞者は4年を越えなければ再受賞できない。

## 2) 研究奨励賞

対象者 : 10月1日現在、満39歳までの会員

候補作品 : 特定した課題について過去の一連の業績とし、かつその中に本学会発表論文を含むもの。

受賞者数 : 2名以内

受賞制限 : 受賞者は3年を越えなければ再受賞できない。

学会賞及び研究奨励賞のご推薦・ご応募は、選考委員会委員長 表秀孝宛に対象作品を添えてお送り下さいますようお願い申し上げます。 会員の皆様のご協力・ご支援を心からお願い申し上げます。

## 新入会員及び退会会員

3月の理事会において、下記の方々の入会及び退会が承認されました。

### 【新入会員】3名

- ・布施 雄治 (中央大学大学院) : 院生会員
- ・若狭 由美 ( (社) エルス 代表理事)
- ・橋本 広直 (駒澤大学大学院) : 院生会員

### 【退会会員】6名

- ・三瓶 正明 (千葉県八街市役所)
- ・小林 昭南 (関西大学大学院)
- ・村岡 利幸 (労働総合コンサルタント事務所)
- ・平松さおり (神戸大学大学院)
- ・花田 (後野) 資文 (大阪市立大学大学院)
- ・赤塚 肇 ( (財) 鉄道総合科学研究所人間科学研究部)

下記の方々は、昨年9月の全国大会の際、理事会において承認されましたが、前回の学会通信で記載漏れとなっていました。大変失礼いたしました。

### 【新入会員】

- ・張 健 (関西大学大学院) : 院生会員
- ・飯田 憲一 (北海道立工業試験場)
- ・一宮 誠 (兵庫県伊丹高等学校)
- ・山田 雅俊 (中央大学大学院) : 院生会員

### 【退会会員】

- ・坂本 亮一 (利脳深耕研究所)

## 理事会議事録 (2010年3月6日)

### 1) 新入会員・退会会員の承認

2009年9月以降の新入・退会会員の報告があり、3人の新入会員と6人の退会会員の件が承認された。

### 2) 2009年度決算について

2009年度決算について報告があり、審議の後承認された。なお、審議において会費を3年以上未納している会員の取り扱いの問題が提起された。この問題に対して、事務局より会費未納者に対する督促を行うと同時に、3年以上の会費未納の会員については、会則第6条に則して、(理事会審議・承認のもと) 退会対象者の確定を行うことが確認された。また、会費未納により退会となった会員が再入会しようとする場合、未納分を支払いの上、再入会を許可することも確認された。

### 3) 2010年度予算について

- ① 2010年度補正予算での次期繰越金が当初の1,316,960円から787,468円となること、
- ② 20周年記念出版事業、特別事業積立金勘定繰入のような特別項目を除いた経常的支出費小計は約210万であるのに対して、会費収入は195万円程度として計上している。経常的支出計上額が会費収入計上額よりも15万円上回ることになる。以上の報告があり、審議の後、承認された。

#### 4) 2011年度予算方針について

- ① 特別事業会計からの繰戻し150万円+田杉基金からの繰り入れ100万円を150万円上回る20周年記念出版事業支出400万円で2009年の320万円の繰越金は激減していること。
- ② 30周年記念事業のための特別事業会計が2010年には65万円に過ぎないこと。
- ③ 繰越金では経常的支出補填を3年程度しか行えないこと。

上記の状況から学会の会計は危機的状況にあり、そこで支出項目の見直し・会費徴収率引き上げ等の学会会計の総合的検討を行うために「会計問題検討プロジェクト・チーム」を会長の下に新たに設置することが審議の後、承認された。

#### 5) 第25回全国大会開催（於：台湾東海大学）について

8月27日、28日に台湾東海大学において開催される第25回全国大会について、大会準備委員会委員長である劉理事より説明があった。基調講演ならびに統一論題のテーマ・報告者、日本語・英語のセッションからなる自由論題等の大会プログラムの大枠について報告があり、了承された。日本側の統括責任者を野村理事ならびに、中山会員（札幌大学）とし、野村理事、中山会員にも大会準備委員会に入って頂くことが了承された。

さらに、自由論題のセッション、報告件数が例年の大会よりも限られてしまい、希望者の中で報告できない会員が少なからず生じてくる可能性が指摘された。そのため、全国大会で報告できなかった会員には、代わりに地方部会で報告を行って頂き、次年度の学会誌への自由投稿論文への投稿・掲載を認めることが了承された。

#### 6) 20周年記念刊行計画について

この件について説明があり、了承された。

#### 7) グローバリゼーション分科会の2010年度海外視察について

第25回全国大会にあわせ、台湾にて8月23日～27日に行うとの報告があった。

#### 8) 学会賞・研究奨励賞授与に向けて

昨年の大会で、今年度は学会活性化のためにも学会賞・研究奨励賞対象作品を発掘することに全力を尽くすことを会員総会で報告しているため、各理事は候補作品を発掘する特段の努力を必要としていることが確認されるととともに、とくに今年度は学会誌編集委員会委員長から論文審査委員会委員長に依頼する際に、レフェリー審査においてこれまでの「可・修正後可・否」だけではなく、受賞対象かどうかについても可否の判断を仰ぐことについて報告があり、承認された。

#### 9) 部会活動の活性化について

上記5)から、9月から11月の間に各地方部会は部会を開催し、自由論題報告希望者に報告の機会を与えることが確認された。

#### 10) 学会ホームページ委員会の委員長代行について

井上秀次郎理事の病氣・療養のため、羽石寛志学会幹事・委員に学会ホームページ委員会委員長代行をお願いすることについて報告があり、了承された。

## 北海道部会 活動報告

北海道部会では、株式会社 デンソーエレクトロニクス（北海道千歳市、2009年4月操業）にて工場見学会を行いました。同社は、トヨタグループをはじめとする国内外の自動車メーカー7社に車載用半導体製品を供給しています。主力製品は、横滑り防止装置に使われるイナーシャセンサ（月産：10万台）、そしてエンジンの吸気圧を測定し燃料噴射の制御に使われる MAPS 4（月産：30万台）です。

現在は、愛知のデバイス事業から移管された機能部品を中心に生産を行っており、製品の全量を親会社のデンソーに納入していますが、将来的には設計機能を併せ持つ、デンソーグループのデバイス事業における戦略的な生産拠点として位置づけられています。工場建屋はつり橋の構造を応用して屋根を作り、柱のない広々とした生産空間を実現しており、海外に生産拠点を展開するデンソーグループの新たなグローバル・モデルだと伺いました。「すっきり・クリーン」を旗じるしに、着実に進めておられる生産ライン拡充や、それと両輪をなす教育・研修制度に触れ、大変勉強になりました。

自らご説明に立たれた杉本正和社長、約2時間にわたりご案内いただいた興石将次経営管理部長、神谷洋行総務部長に大変お世話になりました。記して御礼申し上げます。

1. 工場見学会 2009年12月9日（水）14:00～16:00  
株式会社 デンソーエレクトロニクス（千歳市）
2. 懇親会（於：北広島クラッセホテル）18:00～19:30  
〔注〕昨年度に続き、工場見学会を生産管理学会北海道・東北支部と共催いたしました。また開催にあたり、地代憲弘副会長のご参加をいただきました。

## 西日本部会 活動報告

### <研究発表会>

2009年12月12日(土) 14:00～17:30 於：大阪成蹊大学

- 〔報告1〕 横井克典氏（同志社大学商学研究科）  
テーマ 「国内市場の縮小と二輪企業の販売システムの変革」
- 〔報告2〕 中西孝平氏（同志社大学大学院 D4）  
テーマ 「デジタルスチルカメラ外観部品生産と企業間関係」
- 〔報告3〕 若狭由美氏(エルス)、見市晃氏（追手門学院大学）、赤松辰彦氏（株式会社 ASK Asset Consulting）  
テーマ 「フラワーエッセンスに関する意識調査」

工業経営研究学会 学会通信 68号 (10-3) 2010.3.20

発行人 貫 隆夫 編集担当 那須野公人

学会事務局 明治大学 商学部 風間信隆

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学駿河台研究棟 839号室

E-Mail [nobutaka@kisc.meiji.ac.jp](mailto:nobutaka@kisc.meiji.ac.jp)

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/asimj/index.html>